

第106回 二科福岡巡回展



▲会場入口



▲絵画部ギャラリートーク

2023年3月14日(火)～3月19日(日)福岡市美術館(特別展示室)にて福岡巡回展を開催しました。4部門(絵画・彫刻・デザイン・写真)全国巡回作品と地元入選作品合わせて331点を展示し、3,261人の方に御来場いただきました。二科福岡支部、二科山口支部、二科大分支部、二科佐賀支部、二科長崎支部、二科会デザイン部福岡支部、二科会写真部福岡支部の協力のもと、無事終了することができました。

福岡巡回展関係分の受賞者は7人(福岡6・佐賀1)、二点入選者が8人(福岡7・佐賀1)。初入選者は5人(福岡3・佐賀2)、前回は上回る数となり今後は楽しみな結果となりました。今回は会場が変わり、絵画・彫刻・デザイン・写真各部の組み合わせ・構成等、かなり打ち合わせが必要となり、熟考を重ねました。

当巡回展のみの西日本新聞社賞を選考し表彰を行っていますが、今回絵画部は小川憲一(福岡)、西本誠(長崎)、迫田淳(山口)、デザイン部は、佐藤寛子(福岡)、写真部は、丹生昇一(福岡)の5氏が選出されました。

例年開催のギャラリートークは、3/14(火)11:00から、3/19(月)13:30から、会員・会友等により解説を行いました。今回、東京都知事賞を受賞された谷口貞久会員(奈良)、瀧澤賢福運営委員(大阪)が突然ご来場になられ、急遽3/19のギャラリートークにご参加いただき、貴重なお話をいただきましたことは、大変ありがたく聴講者にとって大変貴重な体験となりました。

入場者へのプレゼントは出品作家制作の色紙プラス、鶴田英輝新会員のご努力でいただいた協賛者からご提供の豪華フェリーでの旅行(神戸/大阪・泉大津、釜山)、リゾートホテルの宿泊券等をプレゼントしました。

西日本新聞に、野口睦幸会員、田浦哲也常務理事の出品作品と展覧会の紹介が掲載され、有明新報に、牟田志津子会友、塚本和美会友、鷹尾重徳氏の作品が掲載されました。またテレビ西日本のニュース等でも展覧会の様子が紹介され、内閣総理大臣賞の田浦常務理事の作品紹介・インタビュー等も紹介されました。また、福岡県美術協会広報誌FASに、小野由紀子会員の作品と展覧会の告知が掲載されました。

○4部門会場展示に関するコラム

《絵画部》

会場の制約により、巡回作品を61点（会員外受賞者を含む）にしぼって展示しました。2点展示の作品を2段にするなどかなり窮屈な展示ではありましたが、空間を演出することで、美しく見せることができました。

《彫刻部》

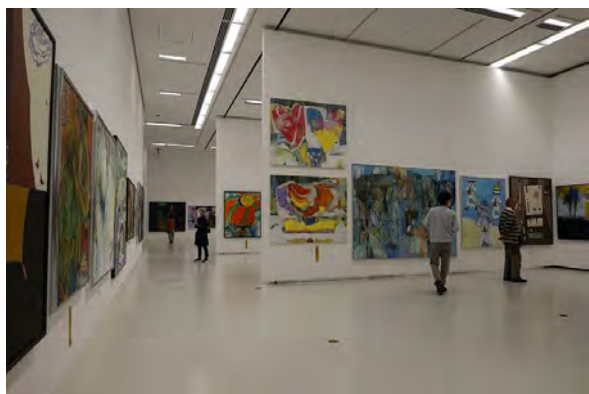
絵画からデザインに移動する空間に彫刻と本展での風景のパネルと動画放映を行い、休憩の椅子等も設置することで、ゆっくり観覧し楽しめるよう工夫をしました。彫刻のだいご味をより近いかたちで伝えることができたのではないかと思います。

《デザイン部》

絵画から彫刻のコーナーを抜けたところで、写真につながるこじんまりとした空間に作品数を最小限に絞り、自然で無理のない展示を心掛けました。

《写真部》

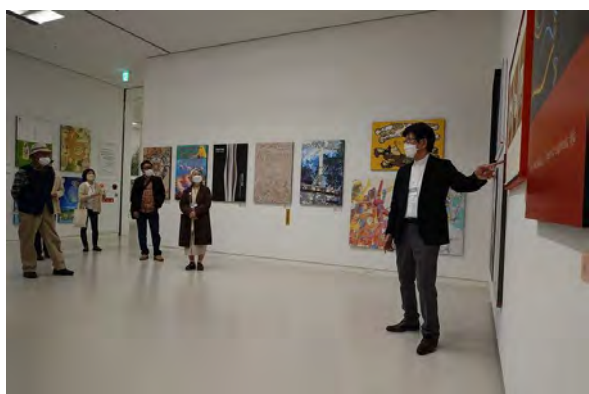
作品数を絞り込み二段がけと一段がけのグループに分けることで変化をつけ、見飽きないスキっとした展示を心掛けました。入口から出口への動線はスムーズで、観覧者の流れにゆとりができ、見やすい構成になったと思います。



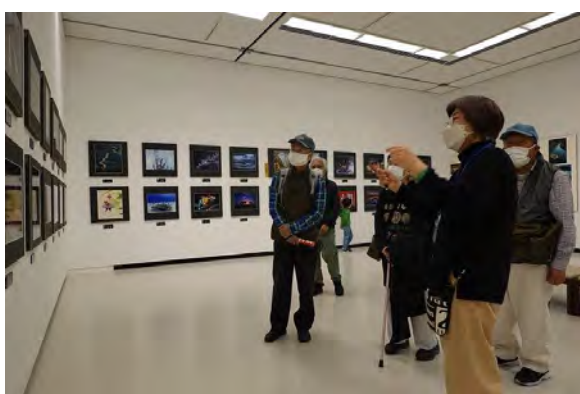
絵画部



彫刻部



デザイン部



写真部